

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【公表番号】特表2007-503379(P2007-503379A)

【公表日】平成19年2月22日(2007.2.22)

【年通号数】公開・登録公報2007-007

【出願番号】特願2006-523591(P2006-523591)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/892 (2006.01)

A 6 1 K 8/81 (2006.01)

A 6 1 K 8/41 (2006.01)

A 6 1 K 8/891 (2006.01)

A 6 1 K 8/64 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

A 6 1 K 8/22 (2006.01)

A 6 1 K 8/46 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/892

A 6 1 K 8/81

A 6 1 K 8/41

A 6 1 K 8/891

A 6 1 K 8/64

A 6 1 Q 5/12

A 6 1 K 8/22

A 6 1 K 8/46

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、ケラチン含有繊維、とりわけ人毛を滑らかにする方法、及びこの方法における、カチオン性ポリマー、第四級アンモニウム化合物、シリコン及びタンパク質加水分解物の中から選ばれるコンディショニング化合物を少なくとも1種含む製剤の使用に関する。

基本的に、全ての動物の毛、例えば羊毛、馬の毛、アンゴラヤギの毛、毛皮、羽毛並びにこれらから製造される製品及び布地は、ケラチン含有繊維である。本発明は、好ましくは、人の巻毛及びそれから作られたかつらを滑らかにするために使用される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

このように、ケラチン含有繊維の永続的な平滑化は、物理的成形、並びにケラチン還元化合物及び酸化化合物の使用によって達成される。対応する方法では、人の巻毛及びそれ

から作られたかつらを滑らかにするために、ケラチン還元化合物の影響下、巻毛を通常 15 mm 超の大きい直径のカーラーに巻くか、巻毛を櫛で滑らかにとかす。巻毛を滑らかにできるもう 1 つの方法は、ホットアイロンによる方法である。しかしながら、巻毛の熱処理は、滑らかにすると同時にケラチン含有繊維の構造を永続的に変形させる (R. McMullen ら、J. Cosmet. Sci., 1998 年、第 49 巻、第 223~244 頁参照)。この繊維構造の変形は、適当な方法を用いることによって防がれるべきである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

更に、水性組成物 (B) が、コンディショニング効果のある化合物として、少なくとも 1 種のカチオン性ポリマーを含むことが好ましい。水性組成物 (A) に含まれるケラチン還元化合物は、好ましくは、少なくとも 1 個のチオール基を有する化合物及びその誘導体の中から、並びに亜硫酸塩、亜硫酸水素塩及び二亜硫酸塩の中から選ばれる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

更に、明記されたアミノ酸の含有量が高い (> 50 %、とりわけ > 70 %)、平均して 2~3 個のアミノ酸を有するオリゴペプチドも、本発明において使用できる。

本発明において特に好ましいのは、前記したアミノ酸リッチである、アルギニン、アスパラギン、アスパラギン酸、並びにこれらの塩及びオリゴペプチド又は加水分解物である。特に好ましいのは、アスパラギン及びアスパラギン酸並びにこれらの塩又は加水分解物である。

好ましい態様では、水性組成物 (C) はタンパク質加水分解物を含まない。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0063】

アルキル又はアルケニル基 R^4 は、4~11 個、好ましくは 8~10 個の炭素原子を含む第一級アルコールから誘導され得る。典型例は、ブタノール、ヘキシルアルコール、カプリルアルコール、カプリナルアルコール及びウンデシルアルコール並びにこれらの混合物 (例えば、脂肪酸メチルエステルを水素化することによって、又は Roelen のオキシ合成由来のアルデヒドを水素化することによって得られる。) である。C₈~₁₈ ヤシ油アルコールの蒸留分離の初留として得られ、不純物として 6 重量%未満の C₁₂ アルコールを含み得る C₈~C₁₀ (DP = 1~3) の鎖長を有するアルキルオリゴグルコシド、及び工業用 C_{9/11} オキシアルコール (DP = 1~3) ベースのアルキルオリゴグルコシドが好ましい。加えて、アルキル又はアルケニル基 R^4 は、12~22 個、好ましくは 12~14 個の炭素原子を含む第一級アルコールからも誘導され得る。典型例は、ラウリルアルコール、ミリスチルアルコール、セチルアルコール、パルモレイルアルコール、ステアリルアルコール、イソステアリルアルコール、オレイルアルコール、エライジルアルコール、ペトロセリルアルコール、アラキルアルコール、ガドレイルアルコール、ベヘニルアルコール、エルシルアルコール、ブラシジルアルコール並びに上記に示したように得られるこれらの工業用混合物である。DP が 1~3 である加水分解 C_{12/14} ヤシ油アルコールベースのアルキルオ

リゴグルコシドが好ましい。

【**手続補正 6**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0079

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【0079】

水性組成物(B)中に含まれる酸化剤は、好ましくは、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム又は過酸化水素から選ばれる。酸化剤として過酸化水素を使用することが特に好ましい。過酸化水素製剤を安定化するために、更なる市販安定剤を添加できる。通常約 0.5~3.0 重量%の H_2O_2 を含む水性 H_2O_2 製剤の pH 値は、好ましくは 2~6 である。臭素酸塩ベースの水性組成物(B)は、通常 1~10 重量%の濃度で臭素酸塩を含み、4~7 の pH 値を有する。